

遠隔地から首都近郊への  
遊牧民の移住  
—2009年1月の調査より—

小長谷有紀(国立民族学博物館)  
20090525@地球研

発表の流れ

- 1) 人文系研究の方針
- 2) 2009年1月調査の概要
- 3) 同上結果のまとめ
- 4) 事例からの抽出
- 5) 今後の指針

研究戦略strategy

<社会的要因→自然環境に対する負荷増>  
を捉える

1. 首都近郊への遊牧民の流入(臨時+移住)
2. ヤギの増加
3. 第三次農業開拓の推進
- ....

研究戦術tactics

遠隔地からの首都近郊への遊牧民の「移住」

1. 量的把握に意味を与えるための質的把握
2. 将来予測のための意思決定メカニズムの把握

研究方法methodology

一般に、  
人類学的フィールドワーク=「参与観察」  
participant observation

今回は、  
サーベイ+ヒアリング(聞き取り)

研究手法measures

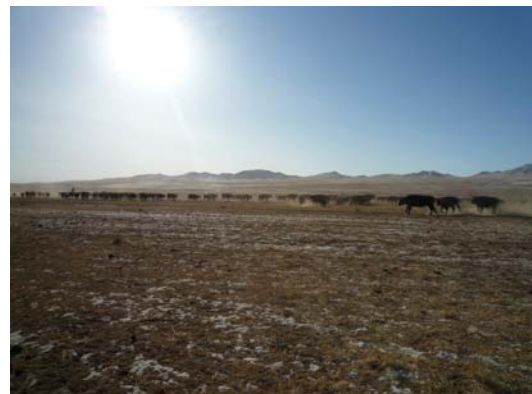
聞き取り対象を合理的に選択設定

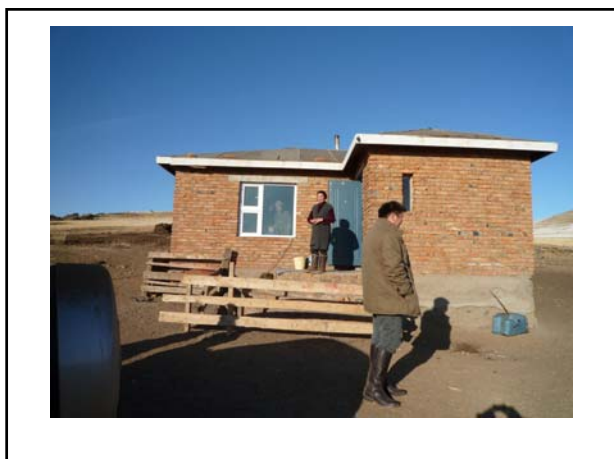
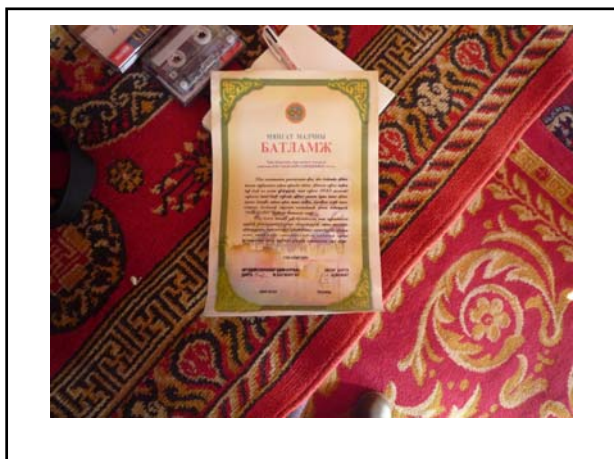
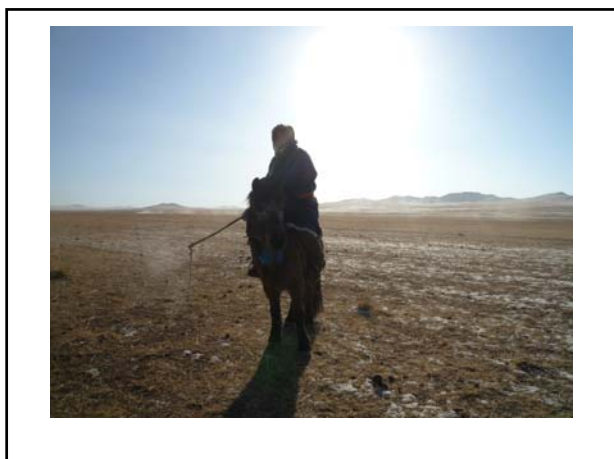
1. 首都近郊(=旧国営農場)
2. オブス出身(恒常的な人口流出地)
3. 裕福な遊牧民  
(植生への影響、土地への投資が大きい)

### 調査概要

時期: 2009年1月24～30日  
場所: 首都から西方60～100キロメートル  
首都から北方60～100キロメートル  
対象者: 10人(うち録音記録は7人)  
58歳～63歳+36歳

### 地図





## 2008年度プロジェクト報告書

- 1) 移住の経緯: 情報先取
- 2) 移住先の選択: 古い国営農場
- 3) 移住の時期: 雪害以前から
- 4) 移住のルート: トーバリンザム「畜群搬入路」
- 5) 移住後の生活: 生活向上(家畜増く処分増)
- 6) 今後の方針: 経営の多角化(観光+農業)
- 7) 環境保全: 植生劣化を懸念して品種改良を伴う牧場経営(定着化)の推進

## インタビュー邦訳の抽出

- 1) 多様な表現から知られる「生活世界」
  - 2) 抽出の焦点＝「市場経済」  
モンゴル語で zah zeel (端edge・街street)
- 「市場(経済)」というキーワードがどのように語られるか？

## 3つの側面

- 1) 移住の動機「市場経済へ接近したい」
- 2) 移住後の経営「市場経済を利用した」
- 3) 今後の経営方針「市場経済を活用しよう」

## 対比的事例

- a) 初老の遊牧民(58歳)  
1992年頃、300頭、牧畜のみ
- b) 若い遊牧民(36歳)  
両親と移住、雪害後、200頭、多角経営

## 初老の遊牧民(58歳)



## 移住までの往来

「私は正確には1992年にこちらへ引っ越してきました。1992年に・・・家を車に積んで先に送って、自分は後で行きました。私は家畜のもとに残っていて、そして屠殺するものを屠殺し、手放すものを手放してから、その冬1月(=1993年)に食べるためのものだけ(食料)をもってきました」

### 移住の共同化

「自分も5月をただのんびり過ごしませんでした。・・・5月には社長や会計係などに無給休暇を頼んでとりました。それから、家畜を連れてきたわけです。93年に故郷に戻り、自分で1300kmの距離(gazar=モンゴル語で土地の意)を自分は乗馬し、親戚兄弟たちと一緒に、足で家畜を追いながら来ました」

### 移動畜群のサイズ

「家畜は300頭を超えるか否かでした。小型家畜がね。大型家畜は少なかったです。20頭ぐらいのウマ、27～8頭のウシしかいませんでした。50頭の大型家畜と、300頭の小型家畜のみを連れてきましたね」

### 道中も放牧

「道はよく知りませんでした。・・・しかし、私は一緒にいったグループ全体を導いて行きました。・・・1枚の地図がありました。地図でいたいわかります。車道はまったく通りません。どの道を行けば近いか、どこに水場があるかなど、夜ごと、地図で調べます。引き渡して屠殺する家畜ではなく、自分の家畜なので、できるだけ太らせながら移動しました」

### 出立

—何日かけて移動しましたか？

「故郷を6月18日に出発し、途中で、森に遭遇すると、素通りせずにウマをつないで(軽量化の方法)、競馬をしました。子どもたちで競争させ、ゆっくりと移動しました。2ヶ月と8日で、このジルミンツァガン湖にやってきました。ある所には7日間も泊まることができました。またある所には1泊して進みました」

### 移住先での不安

「ここでは知り合いは1人もいませんでした。本当に誰も知らない状態でした。外に出て、丘、小丘に登って周りを見ても、土地を知らない。ウマに乗って、1つの頂へ出るとすごく遠いところまで行ってしまったような感じがして。途中で人に出会うのですが、知らない人ばかりでした。挨拶されたら挨拶するだけでした」

### 遊牧民の自己理解

「必ずしも教養を身につけていないからといって、性格が悪いわけではないのですよ。一般に人は、家畜を放牧してきた人間を種オスヒツジや種オスヤギのように思うみたいです。しかし、それは違うのですよ。家畜(を放牧する)というのはある種の生産なのです。わがモンゴル国には産業が少ないでしょう。唯一の産業が5種類の家畜なんですよ」

### 家畜の恩恵

「この家畜こそが、子どもたちを学校に行かせ、教育を受けさせたり、また食べさせたり、お金を持ったりさせてくれます。家畜によってすべてをしています。何かあると、この家畜をあっちこっちで使います。私たちには給料というものはないから、家畜で生活するしかありません」

### 遊牧民のプライド

—1000頭持ちになった理由を教えてください。  
 「さあ、どうってことないね。この郡の人たちは私になぜ家畜を登録して、1000頭持ちになろうとしないのかとよく聞きました。しかし、私は子らを1人前にする(「手をガンザガに、足を鐙に)までは家畜の頭数を数えない、と答えられました。最近、ようやくになりました」

### 次世代への関心

「私自身は教養を身につけて仕事に就こうという考えはありませんでした。子どもたちの教育のことだけを考えてきました。遠隔地の子どもたちは学校を中退したり、遅延したり、いろいろ大変なのです。出費などを考えても難しいことが多々あります。学費やその他の出費が主な原因だったのです」

### 家畜の増加

「子畜を無事に誕生させれば増えます。…我が家では一年に必要な生活費を、子畜の5割程度(の数の家畜)を売却し、残りを育てれば、家畜は増えることとなります。子畜を無事に出産させることが一番大事ですね。新しく生まれたきた子畜をね。今年は宿営地で500余頭の子畜が生まれます」

### 家畜の売却

—ここに到着した頃、家畜を売っていましたか？  
 「年老いた家畜を売ったりしていました。家畜を繁殖させる能力のある家畜を選別する、と言いますよ…同郷の知り合いの人や親戚の人に売りました。…今は市場に持って行って売ります」

### 品種改良への評価

「良いと思います。ヒツジはより脊椎の関節が多くなり、ウマの場合は速くなり、雌馬の場合は乳の出がよくなってきています。私も何もしていないわけではありません。家畜の血が混じれば、血統がよくなります」

### 新しいフェルム(牧場)政策

「それはつまり住宅にいる家畜のようなもの。遅れて生まれてきた子畜には特別に飼料を与えます。頭数が少ないときならかまいません。多いならだめです。自然環境(地水)に適しません。地方の人間は、土地の私有化についてたいへん嫌っています」

### フェルムの適正規模

「10～15頭の乳牛があつて、それにヒツジは300～400頭を超えない程度ですかね。それなら、そういうもの(定着牧場経営)をします。しかし、(頭数が少なくなると)生活水準が下がります。家畜を売買するからこそ、現金収入やその他もろもろ得ることができます」

### 春営地

「春営地をもとうと思つても、水、土地などが合わないのです。そのため、どこか水、川や天然のソーダなどがたくさんあればそこへ移動します。ちょっと早害が起こり、雨の量が少ないときは、家畜が生活の基盤なので、家畜のことを思って移動するのです。そのため、今年はダルハンまで移動してきました。しばらくしたらまた移動するかもしれません」

### 冬営地

「(冬営地に建物を)去年、建てました。羊用の囲いです。94年に建てました。牛用の囲いもそのときに設けました。井戸はありません。それについて常に議論になります。このあたりは地下水がごくまれです。いまはこの雪で生活しています。飲料用の水はこの野生馬センターからもらいます」

### 夏営地

「夏営地は移動していて、たいていブホグヤトルゲン辺りで過ごします。昨夏はエルデネット、ダルハンの境あたりまで行きました。ノムゴン郡の地で、ダルハン市の隣です。わが家は婿の家の2戸だけで行きました」

### 越境移動と土地私有化

「郡の人たちに話してから行きます。向こうに行つても追いつされたりしません。放牧地が私有化されると大変でしょう。しかし、まだだろうと思います。農業が中心で定住したところはそうするしかないかもしれません。しかし、遊牧経済のモンゴルでは無理でしょう。家畜を追う私たちには良いことはありません」

## 土地の配分

—現在、土地を配分する話がありますか？  
 「・・・最近、ブレグというものができています。12～15戸が合同して1ブレグになるのです。バグの小さな単位のようなものです。私たちも1つのブレグに属しています。そこに15～16戸が属しています。地元の家庭が少なく、その他の18県から引っ越してきた家庭が中心です」

## 新しい組織化に関する評価

「ブレグで協同して、牧草を刈ったり、天然の塩や硝石などを集めます。牧草地に一番関心が払われます。内外からは関係のない家畜を入らせません。・・・このブレグの利点とは何なのでしょう。そんなに効果がないように思われます。むしろ余計な行政単位のように思われますが。・・・郡間あるいはバグ間の争いが頻繁に生じるようになってきました。「私のもの」「あなたのもの」とかで始まるらしいです。だから、そんなに利点の多いものとは言えません」

## 望郷の念

「このあいだも、ザヴハン県出身の一家が・・・引っ越して来たとき、連れてきた2頭のウマが故郷へ帰ろうとして、足かせをつけたままで走ろうとして、落ち着かずにいるのを見て飼主は泣いていたそうです。それで、故郷へ戻ろうと決意して、その2頭のウマを放してやって、後で自分たちも帰ることになったそうです。・・・ウマにハダグなどを結んで仏様のようにして行かせたそうです。それから・・・故郷の人たちと電話で連絡を取っていたら、ある日ハダグの付いた2頭のウマが来たという話を聞き、「ウマたちが無事に着いていたら、それでいい」と大喜びしていました・・・」。

## 「市場経済が広がって」

—最初に都会に来たときの生活はいかがでしたか？  
 「都会の生活はまあ、悪くなく、普通でした。市場経済が広がっていて、貨幣の不足が続き、物が少なくなっていました。1990～1991年はそういう時期だったのです」

Zah zeel zadrak

## 「市場経済を追って」

—当時の田舎と都会の違いは何でしたか？

「格差が大きかったということですかね。・・・田舎は都市から遠く離れていて、今と同じく、品物を運輸するのが困難でした。私はなんとか義理の父が都会に住んでいたの、子どもたちをみな高校などに進学させることができました。それから、概して市場経済を追ってこちらに入って来ました」

Zak zeel hooj naashaa orj irsen

## 「市場経済＝都会・学費工面」

—初めて移住するときは市場経済のためですか？

「我が故郷は第11に隔離された県なのです。その中でも我が郡が一番端に位置している郡です。県の中心地から360km離れています。そのため、私は子どもがもう中学、高校生の年頃になったし、子どもたちの学校、教育のことを思い、そして義理の親戚の人たちもここに集まっていたことから、さらに、市場経済へ、都会中央に近づこうと思って来たわけです。・・・学費やその他の出費が主な原因だったのです」



## 「市に持って行って売ります」

—今はどうやって家畜を売っていますか？

「今は市に持って行って売ります。子どもが売りに行きます。婿が行きます」

Zak deer avaachaad borluulna

## 富裕化の試算？

<年増加率0.5;売却率0.5>

$300 \times 0.5 \times (1 - 0.5) = 75 \dots 3$ 年で約2倍  
5年で約3倍

1993 小家畜300+大家畜50

2008 ミヤンガト 1000余

家畜小屋(小家畜1000頭分?)

教育等(小家畜1000頭分?)

## (市場経済)の非利用

(—田舎と都会の違い)

「ここに来てほとんど失敗はありません。家畜は増えました。私は家畜を購入したり、他の商売をやったりすることはしていません」

## aさんにとっての市場経済

- 1) 移住の動機「市場経済を追った」  
教育費の工面を含む
- 2) 移住後の経営「市で家畜を売る」
- 3) 今後の経営方針「家畜を売却する」

## 若い遊牧民(36歳)



## 若い遊牧民のビジネス感覚

「…そして、銀行と協力し、資本主義の時代だから銀行からお金を借りて、家畜をさらに購入して増殖させることができます。夏になったら1千万ぐらい借金して冬を越します。そして、春3~4月頃にカシミアを刈ります。1年間で約2千万トゥグルグのカシミア毛を売却します。この4~6年間は、そういう感じで動いてきました。それで、家畜が一貫して増えたわけです」

### 国家政策への信頼

「国から何らかの方針を見せてくれるでしょう。今は、牧草地を守れなければならない。国から、定住した生活様式が必要と言ったら、「国は万能だ」と言われているのだから、国の政策を信じて農場式になろうかなとも考えています」

### 奢侈

—カシミア毛で取得したお金を競走馬を購入するのに費やしますか？  
「そうです。それだけに使っています。競走馬にはお金を惜しみませんね」

### ヤギ専門

「ヤギは2007年に1000頭になりました。1000頭になってから3年も経ちます。今は、およそ1400～1500頭になっています。一年間に700頭の子ヤギが生まれるのです」

### 雇用主としての遊牧民

「カシミア毛を刈るのは難しくありませんよ。公的組織と契約を結んで協力してもらいます。軍事施設や刑務所と。1頭を1000トグルグで刈ってもらいます。食事やその他の必要品を備えるだけで、自分たちですることはほとんどありません。・・・また、2人を雇い、そちらにも何頭か分けてあげました。全部家畜の恵みなのです。ここの近所の家がそれなのです。2人の年寄りがあります。彼らにも家を建ててあげました」

### 「市場経済に頼る」

—その寒害でどのぐらいの家畜が死亡しましたか？  
「種オスウマが2頭、80頭ほどのウマ、40～50頭ほどのウシを失い、小家畜を150頭ほど失いました。そこで、市場経済に頼ろう(そばで見よう)とした。かなり大きな寒害でしたね」

Zak zeel baraadak

### 「市場経済の成果」

「・・・それ以後、この土地の恵みを貰いながら暮らしてきました。家畜は大いに増えました。ウランバートル市の近くっていい所ですね。この3～4年間、観光客も迎え、もてなすようになりました。・・・乗馬を体験させたり、遊牧民の暮らしぶりを紹介したりするのです。乳製品をウランバートルへ売りに行きます。・・・西から来てから、市場経済の成果を経験しました」

### 「市場経済に近い」

—故郷と比べるとこの地域はどうですか？

「そうですね。私の故郷に比べるとここは家畜を飼うのに適した植生や水などが均等にとれたよい土地です。市場経済に近い。この快適な土地に来て、もう8～9年になりました。住んでいる所の悪口を言うことはありません。ここは水がちょっと不足しています」

### 「市場経済に近づこう」

—どんな理由から移って来たのですか？ここを選んで来たのですか？

「いいえ。そもそも、市場経済に近づこうと思って来ました。向こうではなにもかもから離れていたから。前年に、私の兄と弟の2人が移って来ていました」

### 富裕化の試算？

2000年 200頭

2009年 1500頭

<年増加率0.5;売却×購入率0.5?>  
収入は競走馬

### bさんにとっての市場経済

- 1)移住の動機「市場経済に頼る」  
雇用労働を含む
- 2)移住後の経営「銀行からの借り入れして家畜を購入し、労働力を雇用し、カシミアを売却する」
- 3)今後の経営方針「定着牧畜化や観光も」

### 市場経済との関係

	aさんの場合	bさんの場合
移住の動機	市場経済への接近+教育費	市場経済への接近
移住後の生活	家畜の売却	多角的展開
今後(定着化に対する評価)	不適切	国策は正しい

### 「市場化」移住の2タイプ

- 1)伝統的タイプ  
1999～2001年間の2度の雪害以前  
地方で増えた家畜を売却するため
- 2)企業家タイプ(若年層?)  
雪害以降  
地方で残った家畜を増やすため??

## 2010年1月国際シンポ

1. バグの選定(地元と流入者の割合)
2. 典型的な事例の選定(貧富×世代)
3. 聞き取り項目  
 牧畜経営の推移  
 (流入者については移住前後の比較)